

美濃加茂のまちの景観と里山の景観の共生をめざして

岐阜県美濃加茂市

- まちと里山を守り、育てるための景観まちづくりの調査・社会実験
- 実効性、継続性のある景観計画の推進
- 地域が主体となる景観まちづくり体制の検討

<p>概要</p>	<p>美濃加茂市は岐阜県の南部に位置しており、木曾川に沿った平坦部と、その北に連なる丘陵地と低い山地にわたり、面積約75km²、人口約5万人の都市である。美濃加茂市は、趣のある山なみ、川の流れ、河岸段丘という地形を有するまちである。その地形のうえに集落や住宅地、工業地、商業地などが広がり、それぞれの地形を利用したそれぞれの人々のくらしや営みにより、歴史や文化が醸成した美濃加茂らしい景観が私たちの先人によって引き継がれてきた。また、中山道太田宿は、中山道六十九次51番目の宿場町であり、中山道と飛騨街道、郡上街道との分岐として栄え、多くの人の往来を受け入れてきた。</p> <p>これらの美濃加茂市の良好な景観を守り、育て、つくっていくことにより、まちへの愛着心を高め、このまちに住むことを誇りに思うまちをつくることを目的として、景観計画の策定を進めてきた。このなか本事業において、地区住民による現地調査や社会実験を行い、景観づくりの実践を経験することで、景観形成の手法を学び、地域の住民が主体となる景観づくりの風土を育て、まちなみや自然と共生する先導的な景観まちづくりを目指すことにより、地域の特色を生かした景観形成のための景観計画策定に繋げていくことを目的として、本事業を実施した。</p>
<p>実施内容</p>	<p>①まちなみ景観形成のための各戸の修景シミュレーション検討 中山道太田宿地区の沿道各戸の修景シミュレーションをCGおよびフォトモンタージュを使用し、住民各々に提示し合意形成を図りながら、良好なまちなみ景観づくりのための手法を検討した。修景シミュレーション作成には名古屋工業大学大学院松本直司教授・研究室の協力により実施した。</p> <p>②まちなみ景観づくり社会実験 中山道太田宿地区のまちなみ景観形成のため、地区住民と協働の社会実験として、公共オブジェ等の修景実験を行った。また、既存の常夜灯・行灯等を活用し、環境に優しいLED電球を用いて、落ち着いた夜の夜間景観を創出する社会実験を実施した。</p> <p>③植生調査、景観調査及び計画作成 伊深地区、三和地区の持つ里山の景観を育てていくための植生の調査や、河川と水田、遊休地、集落、里山等との景観形成の相互関係を調査し、地区住民によるワークショップにおいて農と里山景観を育てる計画を作成した。里山の植生調査にはLLC森のなりわい研究所伊藤栄一氏の指導のもとで実施した。</p> <p>④ほたるのビューポイントづくりワークショップ 住民主体のワークショップにおいて、ほたる狩りに訪れる人々や三和地区独自の眺望景観を持つ遊歩道に訪れる人々が安全・安心に楽しく遊歩できる環境を作るための検討や整備作業を行った。</p> <p>⑤禅を活かした景観づくりワークショップ 伊深地区の特性である、「禅」を主体とした景観を創出していくために、住民主体で取り組むワークショップにおいて、既存の風景を活かしたまちづくり手法を検討した。地域の歴史ある建物調査には岐阜工業高等専門学校清水隆宏講師の指導のもとで実施した。</p> <p>⑥景観めぐりの路づくりワークショップ 各地区住民が選出した景観ビューポイントを巡るウォーキングマップを、ウォーキングにより調査作成し、また、景観ビューポイントやコースを案内する看板を検討し、住民主導による景観まちづくり手法を検討した。</p>

<p>取組の成果</p>	<p>本市では、従来、有志による人材・団体や地域の自治会組織等による景観づくりを求めてきた。しかし、地域の自治組織は代表者や役員が1年ごとに交代するシステムとなっており、地域の代表でありながら、その継続的な活動が途絶えてしまうために、景観計画のような長期的な継続活動を要する事業に対しては不都合であるために、継続できる人材及び団体の育成が急務となっていた。このために、本事業を活用し、地域の景観づくりに興味を持ったあるいは必要であると考えている住民で構成したワーキングを主体として、現地調査や社会実験等の景観活動を実践したことにより、景観形成の意義や手法を修得し、今後も景観活動の継続意思を固める要素となった。このような人材及び団体が育ち、本市の景観まちづくりへの道筋が出来たことは、本市の景観計画推進のために大きく前進した。</p> <p>また、市としては「まちの景観と里山の景観の共生」「まちなみから村なみそして山なみへ」を方針とした中山道宿場町のまちの景観と川浦川に沿った農と里山の景観形成に重点的に取り組むことができ、「自然・歴史文化・くらし」美濃加茂らしい景観が創るまちの交流、人の和らぎ」という景観形成の将来像に向けた第一歩を踏み出したことも大きな成果となった。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>本事業では、まちと里山の景観づくりに向けて、調査や社会実験を地域住民主体として取り組み、参加者への景観意識を高揚をはかることができた。しかしながら、景観づくりを進めるにあたっては、景観づくりルールとともに、それを活用し担っていくNPO団体などの継続的な組織が育ち、地域住民への啓発や協働の推進体制の構築が必要不可欠と認識した。特に里山景観づくりにおいては、里山施業において木材利用、実施体制、資金確保などの課題が山積みであり、景観的な視点に限らず、まちづくり活動の一環として取り組む必要性が伺えた。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>今後は景観計画を推進するとともに、今回立ち上げたワーキングなどの人材及び団体を主体とした景観まちづくり活動を進め、さらに、市全域に普及させ、市民が主役の景観まちづくりの活性化を目標とし、景観法の目的である、住民生活並びに住民経済及び地域社会の健全な発展を目指す。</p>
<p>市町村名</p>	<p>岐阜県美濃加茂市</p>
<p>部局／担当者名</p>	<p>岐阜県美濃加茂市建設水道部都市計画課／大畑・渡辺</p>
<p>連絡先</p>	<p>TEL : 0574-25-2111</p>
<p>リンク</p>	

(写真又は図)

取組①の写真



まちなみ景観形成のための各戸の修景シミュレーションの説明会

取組②の写真



LED電球を用いた夜間照明社会実験

取組③の写真



照葉樹林の植生調査(伊深地区)

取組④の写真



(左)ほたるのビューポイントづくり遮光壁設置実験 (右)御殿山の遊歩道整備

取組⑤の写真



禅を活かした景観づくりワークショップ
(左)伊深のめぐる道実験 (右)伊深の建物調査

取組⑥の写真



景観めぐりの路づくりワークショップ
(左)古井地区 (右)下米田地区